

# 福島第一原子力発電所20km圏内海域における魚介類の測定結果

## 資料3-2

2026年3月24日  
東京電力ホールディングス株式会社

### I. 港湾外20km圏内モニタリング結果概要（セシウム）

今回のまとめ

- 1 採取日 2025年10月2日 ～ 2025年12月24日
- 2 地点数 11地点
- 3 総検体数 28種168検体（クロソイの検体数：7検体）
- 4 不検出数 168検体（100%）

2025年10月～12月に東京電力が実施した福島第一港湾外における魚介類のモニタリングのうち、セシウム濃度が検出された魚介類は無かった。

採取地点	採取日	魚種	全長(cm)	体重 (kg)	セシウム合計 Bq/kg(生)
-	-	-	-	-	-

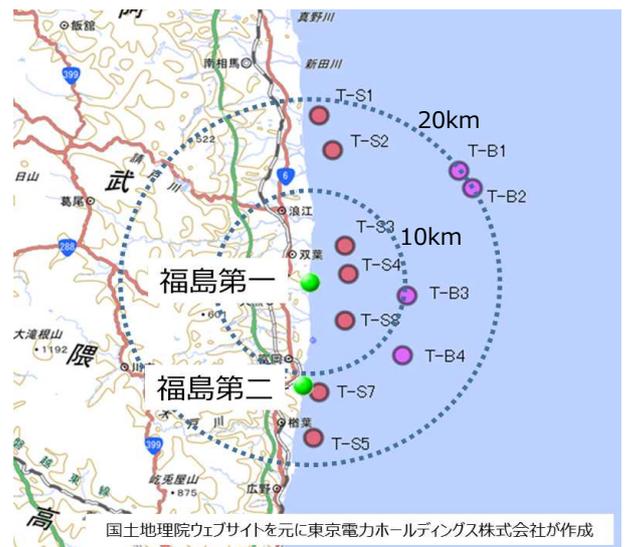
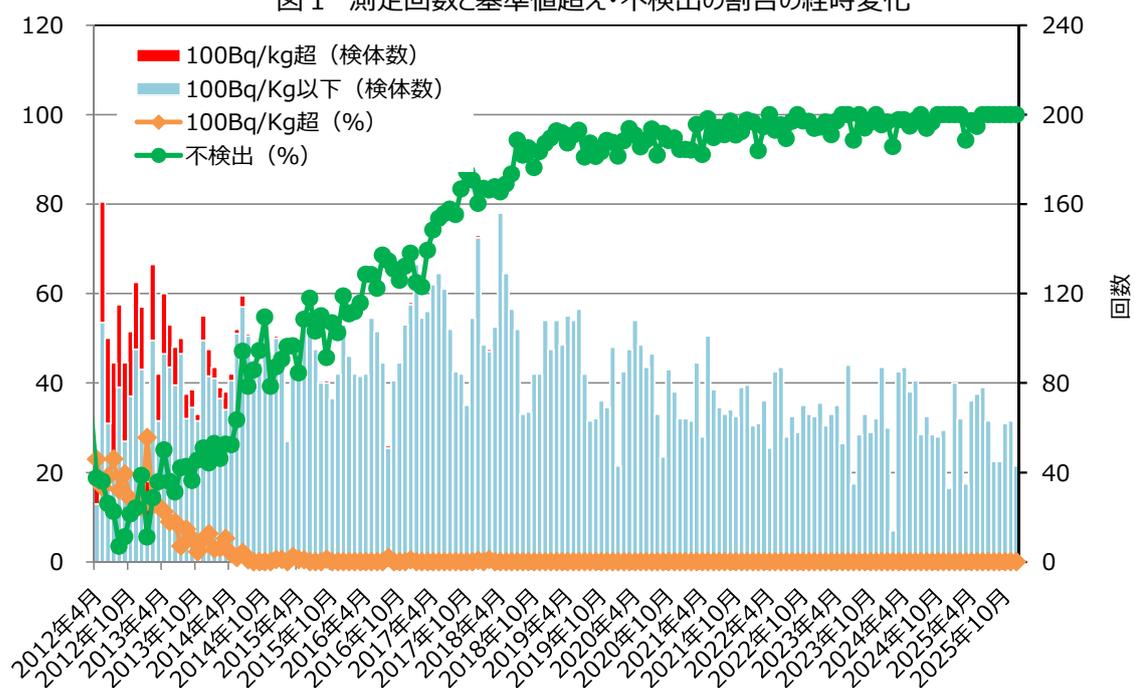


表1 放射性セシウム濃度が100Bq/kgを超えた検体数・割合と不検出の検体数・割合

年	月	全体数	100Bq/kg 超		検出～100Bq/kg		不検出	
			検体数	%	検体数	%	検体数	%
2011年	-	3	0	0.0	2	66.7	1	33.3
2012年	-	1197	389	32.5	654	54.6	154	12.9
2013年	-	1086	133	12.2	713	65.7	240	22.1
2014年	-	1104	15	1.4	616	55.8	473	42.8
2015年	-	1087	3	0.3	501	46.1	583	53.6
2016年	-	1183	2	0.2	411	34.7	770	65.1
2017年	-	1270	2	0.2	245	19.3	1023	80.6
2018年	-	1211	0	0.0	116	9.6	1095	90.4
2019年	-	1002	0	0.0	62	6.2	940	93.8
2020年	-	940	0	0.0	54	5.7	886	94.3
2021年	-	854	0	0.0	31	3.6	823	96.4
2022年	-	801	0	0.0	19	2.4	782	97.6
2023年	-	737	0	0.0	12	1.6	725	98.4
2024年	-	750	0	0.0	9	1.2	741	98.8
2025年	4月	72	0	0.0	1	1.4	71	98.6
	5月	75	0	0.0	2	2.7	73	97.3
	6月	78	0	0.0	0	0.0	78	100.0
	7月	63	0	0.0	0	0.0	63	100.0
	8月	45	0	0.0	0	0.0	45	100.0
	9月	45	0	0.0	0	0.0	45	100.0
	10月	62	0	0.0	0	0.0	62	100.0
	11月	63	0	0.0	0	0.0	63	100.0
	12月	43	0	0.0	0	0.0	43	100.0
合計		13771	544	-	3448	-	9779	-

図1 測定回数と基準値超え・不検出の割合の経時変化



## 表2 モニタリング実績

- ・魚種数：38種 検体の種類数
- ・2025年4月～2025年12月に採取

分類	魚種名	分類	魚種名
魚類	アイナメ	魚類	チダイ
	アカエイ		ニベ
	イシガレイ		ババガレイ
	イシダイ		ヒラメ
	オオクチイシナギ		ブリ
	カスザメ		ホウボウ
	カナガシラ		ホシエイ
	ガンゾウビラメ		ホシザメ
	キアッコウ		マアジ
	キツネメバル		マイワシ
	クロソイ		マコガレイ
	クロダイ		マゴチ
	コモンカスベ		マサバ
	ショウサイフグ		マダイ
	シログチ		マダラ
	シロメバル		マトウダイ
	スズキ		ムシガレイ
	ソウハチ		メイタガレイ
	タチウオ		甲殻類

## II. 定点モニタリング結果概要（トリチウム）

(1) 魚の測定結果（トリチウム） 1/2

2025年6月～2025年8月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。

組織自由水型トリチウム（FWT）の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム（OBT）はすべて不検出であった。

採取地点	採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型トリチウム (Bq/L)	有機結合型トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の平均値と幅				
								平均値(検出値の平均値)	幅			
20 km 圏内北側	6月18日	ヒラメ	74.0	5.23	0.083	ND(0.22)	0.086	0.082	0.069 ~ 0.091			
			53.7	1.89								
			57.3	2.44								
	7月3日	ヒラメ	59.3	2.40	0.080	ND(0.21)	0.071					
			55.8	2.01								
			55.0	1.89								
	8月20日	ガンゾウヒラメ	31.3	0.41	-	-	0.069					
			29.0	0.30								
			32.5	0.46								
	T-S2	6月18日	ヒラメ	55.6	1.93	0.090	ND(0.22)			0.085		
				45.8	1.03							
		7月3日	ヒラメ	63.6	2.61	0.062	ND(0.21)			0.090		
51.7				1.87								
8月20日		ヒラメ	39.0	0.77	-	-	0.091					
			52.8	1.60								
10 km 圏内	T-S3	6月5日	ヒラメ	72.0	5.13	0.097	ND(0.22)	ND(0.068)	0.084	ND ~ 0.11		
				68.0	3.93							
				65.8	3.49							
		7月4日	ヒラメ	52.5	1.65	0.061	ND(0.21)	0.071				
	-			-	-						-	0.082
	-			-								
	8月19日	対象魚なし	-	-		-	-	-				
			6月5日	ヒラメ	63.2	3.75	0.099	ND(0.22)			ND(0.063)	
			7月4日	ヒラメ	58.6	2.20						
	51.7	1.63										
	8月19日	ヒラメ	53.8	1.59	ND(0.057)	ND(0.21)	0.085					
			64.5	2.91								
			40.2	0.67								
	T-S8	6月6日	ヒラメ	65.7	3.71	0.082	ND(0.23)	0.084				
				59.4	2.86							
		7月4日	ヒラメ	58.7	2.34	0.064	ND(0.28)	0.070				
				57.3	2.20							
		8月19日	ヒラメ	58.3	2.37	0.11	ND(0.28)	0.11				
52.5				1.66								
20 km 圏内南側	T-S5	6月19日	ヒラメ	54.8	1.86	0.075	ND(0.22)	0.070	0.13	ND ~ 0.19		
				59.0	2.25							
				38.4	0.60							
		7月23日	ヒラメ	68.0	3.93	0.15	ND(0.21)	ND(0.063)				
				65.8	3.49							
				52.5	1.65							
	8月22日	対象魚なし	-	-	-	-	0.15					
			6月19日	ヒラメ	66.2	3.65	0.091	ND(0.25)			0.098	
					53.8	1.89						
	49.1	1.52										
	T-S7	7月23日	ヒラメ	58.6	2.20	0.095	ND(0.27)	0.14				
				51.7	1.63							
8月22日		対象魚なし	-	-	-	-	0.19					
			53.8	1.59								

- : 採取中止または試料量不足により分析中止



※1 組織自由水型トリチウム（FWT）

- ・魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。（水として体内（組織内）を移動する）
- ・測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム（OBT）

- ・魚の体の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
- ・測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

\* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

(1) 魚の測定結果（トリチウム） 2/2

2025年6月～2025年8月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。

組織自由水型トリチウム（FWT）の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム（OBT）はすべて不検出であった。

採取地点	採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型トリチウム (Bq/L)	有機結合型トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の平均値と幅				
								平均値(検出値の平均値)	幅			
10 km～20 km 沖合	6月17日	ヒラメ	37.0	0.57	-	-	ND(0.078)	0.12	ND ～ 0.15			
			36.2	0.54								
	7月	-	-									
	8月26日	ムシガレイ	19.5	0.07								
			20.4	0.09								
			20.0	0.08								
			21.0	0.09								
			23.2	0.12								
			21.1	0.09								
			23.8	0.13								
			21.5	0.10								
			21.0	0.09								
			21.5	0.09								
			16.5	0.04								
	16.2	0.04										
	6月17日	ヒラメ	51.5	1.50						0.081	ND(0.26)	0.12
			46.2	1.15								
	7月	-	-									
	8月26日	ムシガレイ	25.5	0.15						-	-	0.14
			24.8	0.14								
			24.3	0.15								
			25.6	0.16								
			22.3	0.10								
			22.7	0.12								
	21.7	0.09										
	6月10日	ヒラメ	48.5	1.27						-	-	0.15
			48.4	1.12								
	6/21 (7月分)	ヒラメ	63.8	2.65						ND(0.073)	ND(0.30)	0.11
41.1			0.84									
8月分	-	-										
6月10日	ムシガレイ	31.2	0.29	-	-	0.13						
		26.8	0.17									
		26.5	0.17									
		25.3	0.14									
		26.0	0.16									
		24.8	0.12									
		23.0	0.11									
		59.0	2.23									
		6/21 (7月分)	ヒラメ				48.9	1.30	0.099	ND(0.29)	0.11	
							50.6	1.49				
		8月分	-				-					

- : 採取中止または試料量不足により分析中止



※1 組織自由水型トリチウム（FWT）

- ・魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。（水として体内（組織内）を移動する）
- ・測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム（OBT）

- ・魚の体の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
- ・測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

\* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

(2) 海藻の測定結果（トリチウム（H3）、ヨウ素129、セシウム）

- ・組織自由水型トリチウム<sup>※1</sup>の濃度は通常の海水より若干高めであるが、低濃度であり、有機結合型トリチウム<sup>※2</sup>は全て不検出であった。
- ・ヨウ素129は不検出であった。

採取地点	採取日	試料名	組織自由水型トリチウム (Bq/L)	有機結合型トリチウム (Bq/L)	ヨウ素129 Bq/kg(生)	セシウム合計 Bq/kg(生)
1F 港湾内 (T-K1)	2025年7月10日	ほんだわら	—	—	—	5.4
1F 港湾外北側 (T-K2)	2025年7月11日	ふだらく	0.091	ND(0.25)	ND(0.020)	0.24
1F 港湾外南側 (T-K3)	2025年7月11日	ほんだわら	0.12	ND(0.25)	ND(0.030)	2.8

－ 分析対象外



※1 組織自由水型トリチウム（FWT）

- ・海藻の茎や葉の水分に含まれているトリチウムのこと。（水として体内（組織内）を移動する）
- ・測定値は、海藻を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム（OBT）

- ・海藻の茎や葉の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
- ・測定値は、乾燥させた海藻を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

※目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

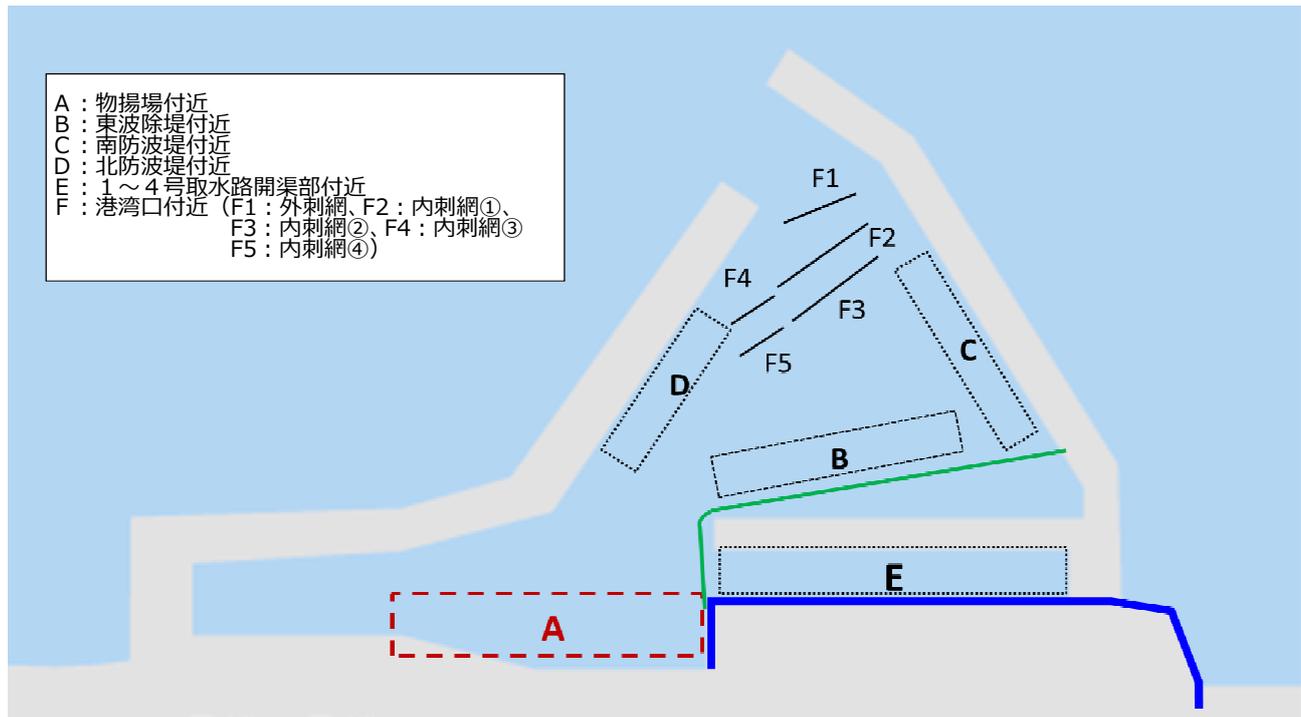
### Ⅲ. 福島第一原子力発電所港湾魚類捕獲状況（速報）

#### A. 物揚場付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	はえ縄漁,かご網漁	17	クロソイ	ND(2.1)	70	70	31.5	0.442
2023年度	底刺し網漁,かご網漁	184	ウナギ	7.9	440	447.9	55.0	0.194
2024年度	底刺し網漁,かご網漁	24	アイナメ	ND(2.1)	28	28	38.5	0.750
2025年4月		0	試料採取無し					
2025年5月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.3)	18	18	51.5	0.175
2025年6月	かご網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.1)	29	29	82.0	0.815
2025年7月	アナゴ筒漁	3	マアナゴ	ND(1.9)	30	30	73.0	0.540
2025年8月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	9	マアナゴ	ND(1.9)	17	17	87.0	0.880
2025年9月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.3)	13	13	60.0	0.300
2025/10/14	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(2.1)	3.5	3.5	38.0	0.510
2025/10/28	アナゴ筒漁	1	マダコ	ND(2.7)	4.3	4.3	55.4	0.485
	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(3.5)	29	29	62.8	0.320
	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.6)	7.0	7.0	66.3	0.400
2025/10/30	かご網漁	1	マダコ	ND(2.4)	ND(2.0)	ND	62.0	1.235
2025/11/6	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.4)	17	17	70.0	0.460
	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.2)	9.7	9.7	65.9	0.395
2025/11/17	底刺し網漁	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/20	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.3)	7.9	7.9	68.5	0.475
2025/11/25	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.3)	11	11	36.0	0.835
2025/11/27	かご網漁	1	マダコ	ND(2.5)	3.7	3.7	51.0	0.470
2025/12/2	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(2.1)	12	12	74.5	3.875
	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(2.0)	14	14	68.0	3.060
2025/12/12	底刺し網漁	1	ボラ	ND(2.3)	11	11	37.2	0.380
2025/12/15	底刺し網漁	1	アイナメ	ND(2.7)	3.3	3.3	39.5	0.645
2025/12/26	底刺し網漁	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

#### 魚類捕獲場所



#### A. 物揚場付近

- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目)) : 3回/週、かご網 : 1回/週、アナゴ筒 : 1回/2週

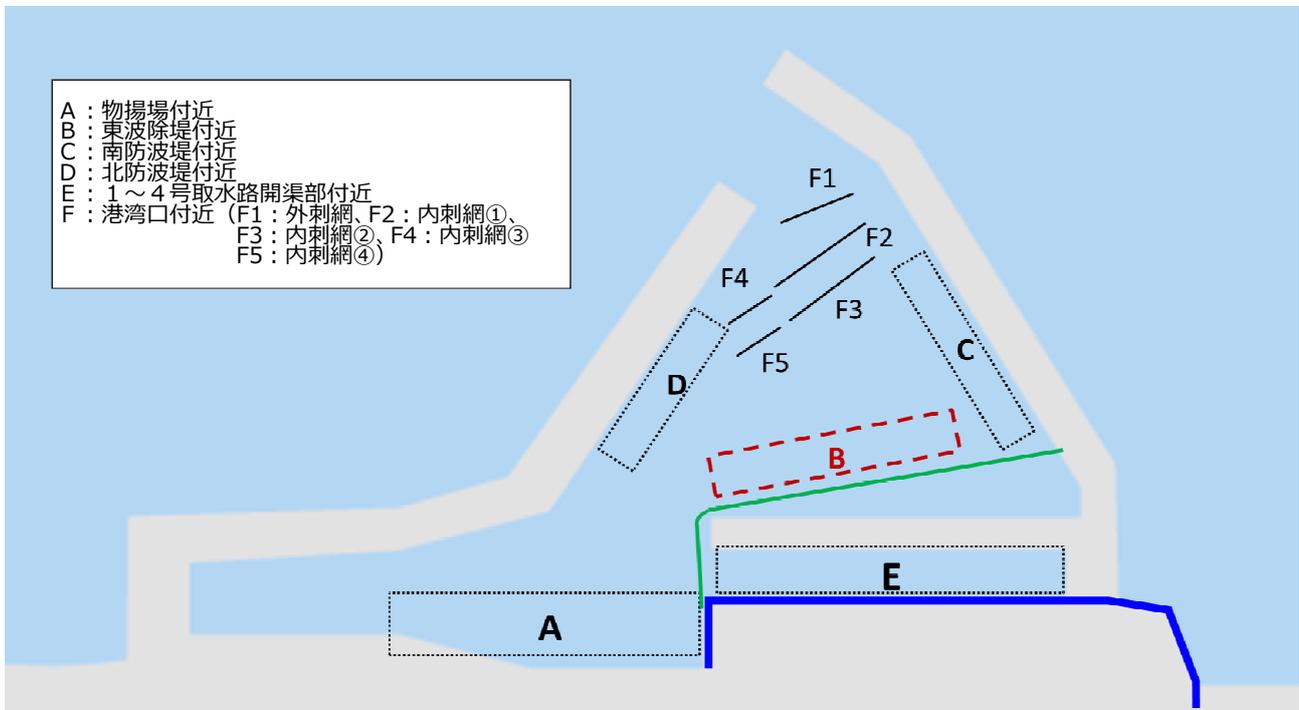
### Ⅲ. 福島第一原子力発電所港湾魚類捕獲状況（速報）

#### B. 東波除堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	451	ムラソイ	50	1,600	1,650	31.0	0.638
2023年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	394	クロソイ	16	750	766	29.0	0.326
2024年度	底刺し網漁	156	スズキ	ND(2.4)	24	24	69.0	2.595
2025年4月	底刺し網漁	3	アイナメ	ND(2.2)	22	22	34.0	0.520
2025年5月	底刺し網漁	22	スズキ	ND(2.2)	4.6	4.6	35.0	0.410
2025年6月	底刺し網漁	13	スズキ	ND(2.2)	3.6	3.6	56.0	1.725
2025年7月	底刺し網漁	9	マゴチ	ND(3.1)	13	13	35.0	0.265
2025年8月	底刺し網漁	5	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年9月		0	試料採取無し					
2025/10/7	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(1.6)	5.6	5.6	44.0	0.875
2025/10/14	底刺し網漁	1	マゴチ	ND(2.6)	8.3	8.3	36.6	0.300
	底刺し網漁	1	コノシロ	ND(3.5)	ND(2.7)	ND	28.0	0.195
2025/10/17	底刺し網漁	1	マゴチ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/10/21	底刺し網漁	1	ヒラメ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/10/24	底刺し網漁	1	コノシロ	ND(3.1)	ND(2.8)	ND	27.3	0.205
2025/10/28	底刺し網漁	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/3	底刺し網漁	1	クロダイ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/17	底刺し網漁	1	マゴチ	ND(4.0)	12	12	26.6	0.115
2025/11/28	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(2.4)	2.4	2.4	56.1	1.805
2025/12/26	底刺し網漁	1	メジナ	試料損傷のため測定対象なし				

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

#### 魚類捕獲場所



#### B. 東波除堤付近

- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目))：3回/週

C. 南防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁, かご網漁	164	タケノコメバル	ND(2.5)	54	54	41.5	1.122
2023年度	底刺し網漁, かご網漁	115	ボラ	ND(3.4)	150	150	37.5	0.506
2024年度	底刺し網漁, かご網漁	44	ムラソイ	ND(3.1)	46	46	24.5	0.270
2025年4月	底刺し網漁	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年5月	底刺し網漁	1	ヒラメ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年6月		0	試料採取無し					
2025年7月		0	試料採取無し					
2025年8月		0	試料採取無し					
2025年9月		0	試料採取無し					
2025年10月		0	試料採取無し					
2025年11月		0	試料採取無し					
2025年12月		0	試料採取無し					

D. 北防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

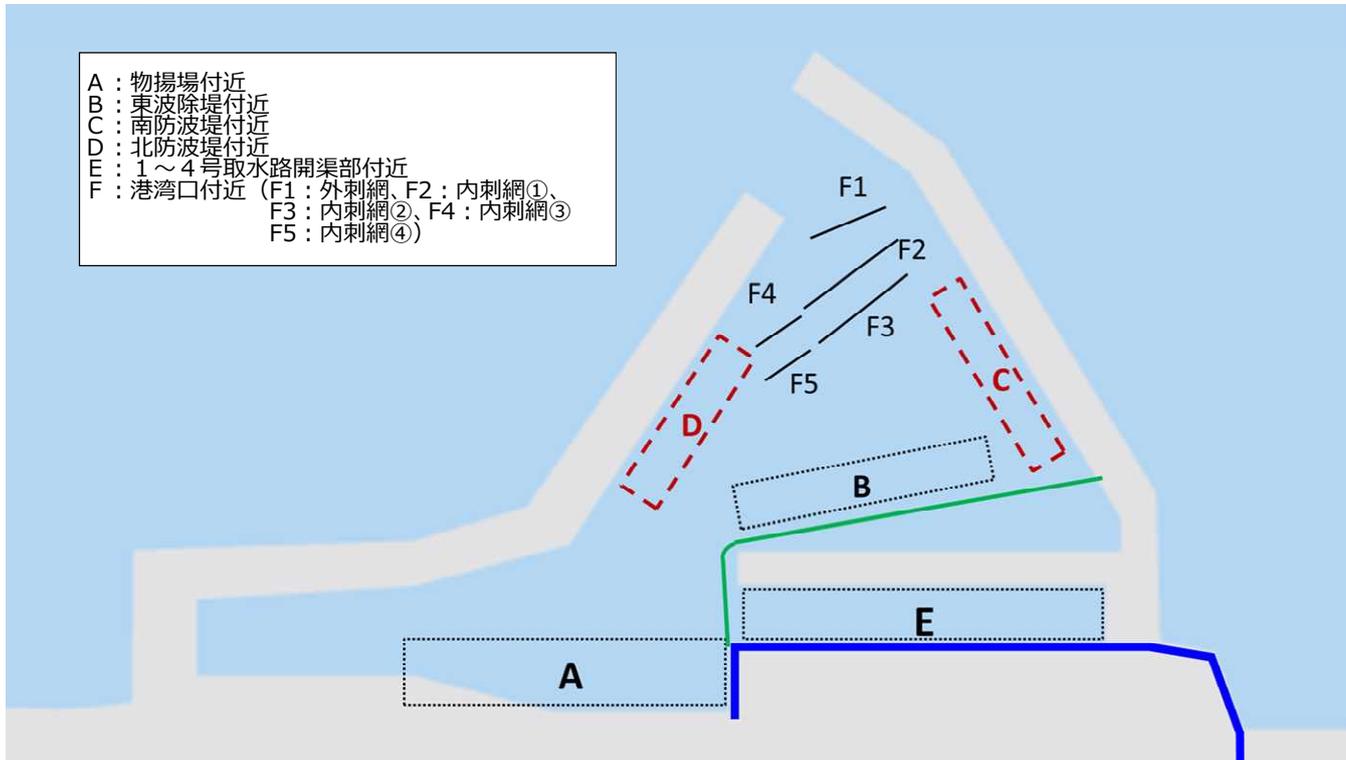
捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁, かご網漁, はえ縄	348	マコガレイ	9.3	430	439.3	38.0	0.610
2023年度	底刺し網漁, かご網漁, はえ縄	310	スズキ	9.4	470	479.4	42.5	0.630
2024年度	底刺し網漁, かご網漁, はえ縄	111	ムラソイ	ND(2.6)	32	32	25.5	0.350
2025年4月	底刺し網漁, かご網漁	4	エゾイソアイナメ	ND(4.1)	64	64	24.6	0.120
2025年5月	底刺し網漁	3	コソシロ	ND(3.2)	4.6	4.6	26.0	0.185
2025年6月	底刺し網漁, かご網漁	6	エゾイソアイナメ	ND(3.1)	30	30	30.0	0.270
2025年7月	底刺し網漁, かご網漁	7	コウイカ	ND(2.9)	ND(2.4)	ND	33.0	0.230
2025年8月	かご網漁	1	マダコ	ND(2.6)	ND(2.0)	ND	55.0	0.720
2025年9月	底刺し網漁, かご網漁, はえ縄	3	カンパチ	ND(3.3)	ND(2.4)	ND	27.0	0.225
2025/10/16	かご網漁	1	マダコ	ND(2.5)	3.8	3.8	60.3	1.085
	はえ縄漁	1	マアナゴ *	ND(2.2)	7.7	7.7	42.6	0.105
2025/10/30	かご網漁	1	アイナメ	ND(2.5)	14	14	42.5	0.940
2025/11/20	かご網漁	1	マアナゴ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/27	かご網漁	1	マアナゴ	ND(2.1)	9.2	9.2	61.7	0.425
2025/12/17	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.3)	11	11	68.0	0.795
	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.2)	9.6	9.6	64.0	0.390
	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.4)	10	10	74.0	0.615

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

\* 従来より小さい魚を分析

10/16 マアナゴ(体重105g) 試料量15g

魚類捕獲場所



C. 南防波堤付近

- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)) : 3回/週、かご網 : 1回/週

D. 北防波堤付近

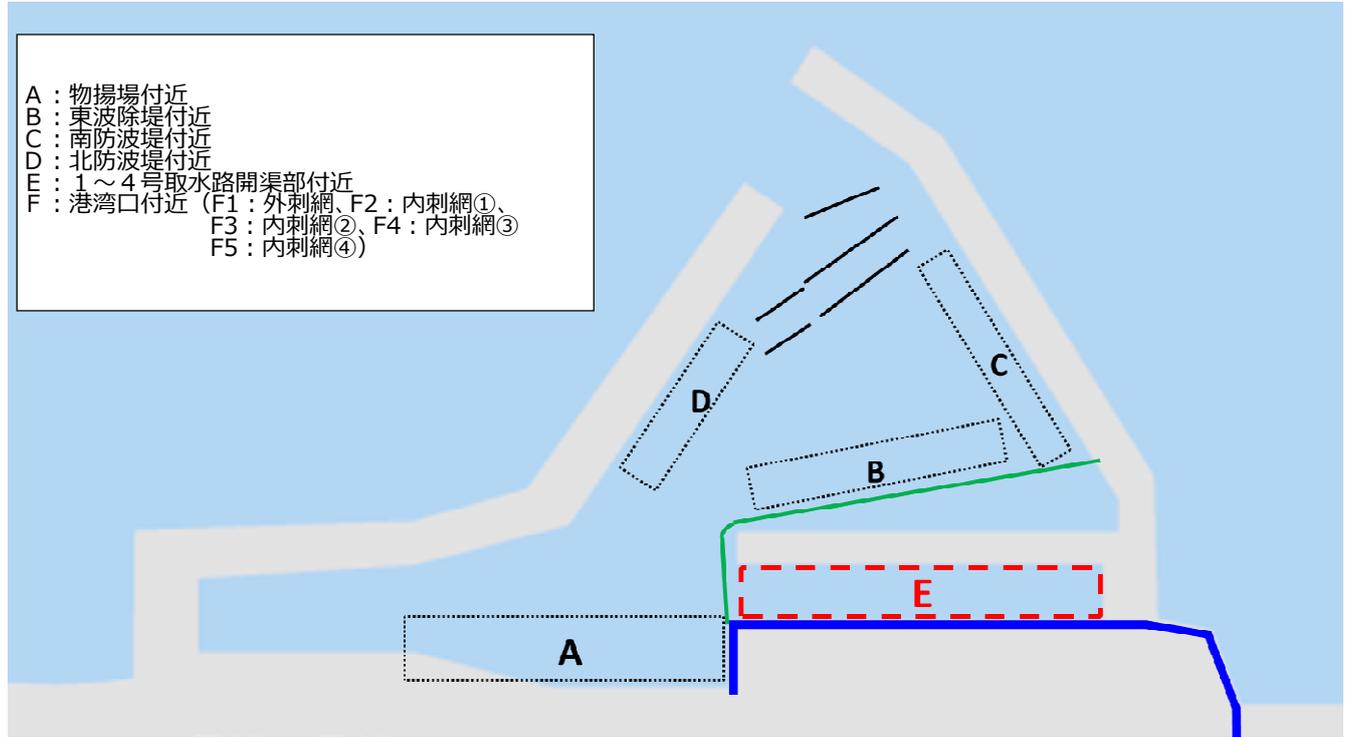
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)) : 3回/週、かご網 : 1回/週、はえ縄 : 1回/2週

E. 1～4号取水路開渠部内（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	かご網漁	13	ウナギ	48	1,700	1,748	71.0	0.618
2023年度	かご網漁	21	クロソイ	380	18,000	18,380	30.5	0.384
2024年度	かご網漁	1	マハゼ	重量不足のため測定対象なし				
2025年4月		0	試料採取無し					
2025年5月		0	試料採取無し					
2025年6月		0	試料採取無し					
2025年7月		0	試料採取無し					
2025年8月		0	試料採取無し					
2025年9月		0	試料採取無し					
2025年10月		0	試料採取無し					
2025年11月		0	試料採取無し					
2025年12月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



E. 1～4号取水路開渠部内

- ・試料採取を目的に網等を設置しているが、港湾とは仕切られているため陸上から実施できるかご網とアナゴ筒を採用。
- ・かご網：1回/週、アナゴ筒：1回/2週（仕掛けは常時設置）

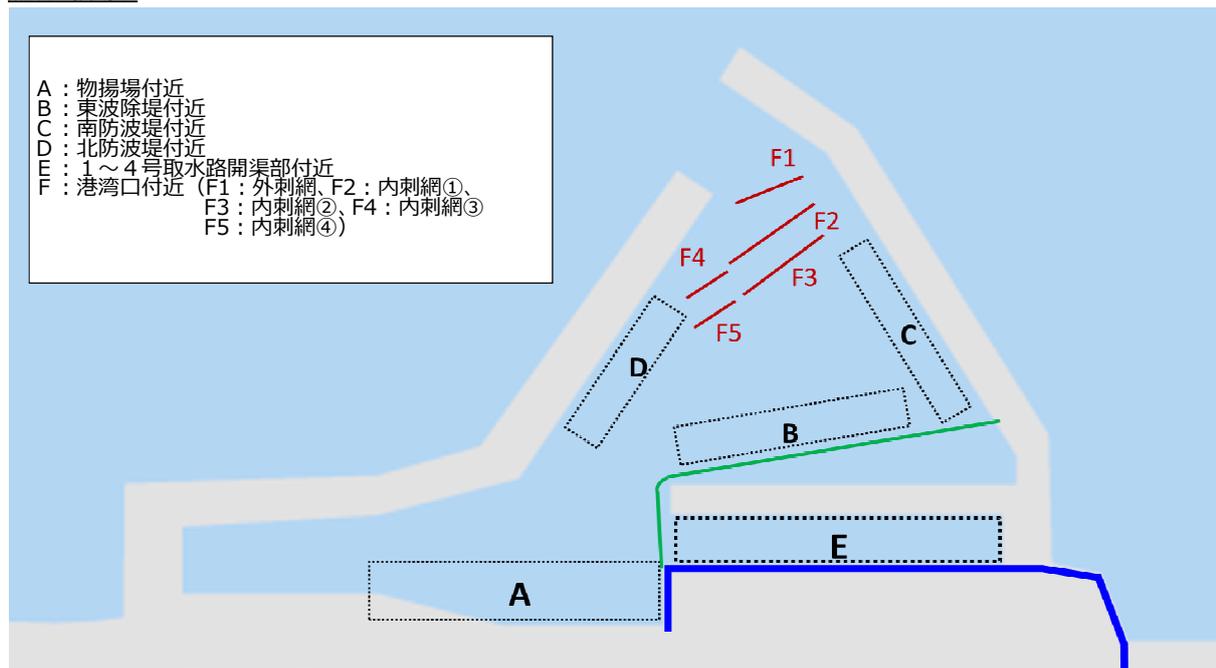
F. 港湾口付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁(F)	331	ムラソイ	4.2	180	184.2	36.0	0.936
2023年度	底刺し網漁(F)	250	マコガレイ	20	890	910	39.5	0.558
2024年度	底刺し網漁(F)	94	マコガレイ	ND(2.3)	47	47	38.0	0.500
2025年4月	底刺し網漁(F)	4	マコガレイ	ND(2.0)	10	10	39.0	0.795
2025年5月	底刺し網漁(F)	7	マゴチ	ND(2.6)	ND(2.0)	ND	56.0	1.170
2025年6月	底刺し網漁(F)	10	コシロ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年7月	底刺し網漁(F)	3	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年8月	底刺し網漁(F)	2	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年9月	底刺し網漁(F)	6	マコガレイ	ND(2.2)	13	13	43.5	1.430
2025/10/1	底刺し網漁(F4)	1	カンパチ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/10/8	底刺し網漁(F3)	1	マゴチ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F4)	1	シロメバル	試料損傷のため測定対象なし				
2025/10/15	底刺し網漁(F2)	1	ヒラメ	ND(2.1)	ND(1.8)	ND	45.0	0.815
	底刺し網漁(F2)	1	サメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F2)	1	ヒラメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	マゴチ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/10/22	底刺し網漁(F3)	1	マゴチ	ND(2.7)	3.5	3.5	36.0	0.260
	底刺し網漁(F3)	1	ハタ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F4)	1	マゴチ	ND(2.0)	7.3	7.3	41.5	0.415
2025/10/29	底刺し網漁(F2)	1	マゴチ	ND(2.6)	6.8	6.8	47.0	0.685
	底刺し網漁(F2)	1	ヒラメ	ND(2.2)	5.4	5.4	50.0	1.270
	底刺し網漁(F4)	1	メジナ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/5	底刺し網漁(F4)	1	コシロ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/19	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	ND(2.2)	ND(2.3)	ND	45.2	0.820
	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	ND(3.0)	4.5	4.5	41.7	0.615
	底刺し網漁(F1)	1	ケムシカジカ	ND(2.4)	2.0	2.0	36.5	0.865
	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	クロソイ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F2)	1	クロソイ	ND(2.8)	85	85	29.9	0.475
	底刺し網漁(F3)	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/11/26	底刺し網漁(F1)	1	マゴチ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	ND(2.0)	9.9	9.9	48.1	0.895
	底刺し網漁(F1)	1	マコガレイ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F2)	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F2)	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/12/3	底刺し網漁(F1)	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F5)	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/12/10	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	クロダイ	試料損傷のため測定対象なし				
2025/12/17	底刺し網漁(F3)	1	コシロ	ND(3.0)	ND(2.8)	ND	28.0	0.195
	底刺し網漁(F4)	1	ムラソイ	ND(2.4)	36	36	24.0	0.230
2025/12/30	底刺し網漁(F3)	1	ムラソイ	ND(4.1)	7.0	7.0	21.0	0.170
	底刺し網漁(F3)	1	ムラソイ	ND(4.5)	5.5	5.5	24.5	0.250
	底刺し網漁(F3)	1	スケソウダラ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F5)	1	ヒラメ	ND(2.5)	17	17	56.0	1.610

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

捕獲魚類数合計 約 10,060 (2012年度に捕獲した829匹を含む)

魚類捕獲場所



F. 港湾口付近  
 ・主に港湾内外の魚の移動防止を目的に網を設置しているため、大型船舶航行時以外は常時設置とし、網を揚げる頻度も週1回としている。  
 ・底刺し網(外刺網：スズキ網(4.5寸目)1枚、内刺網：カレイ網(4.5寸目)2枚、メバル網(2.5寸目)2枚)：1回/週。

## IV. 港湾魚類対策の概要

### 1. 目的

福島県で行われている漁業や、モニタリングで捕獲される魚介類から高濃度のセシウムが検出されることによって、国内外の消費者に不安を与え、漁業の復興を妨げることを無いうように、港湾の環境改善による魚介類の汚染防止、魚介類の移動防止・捕獲、モニタリングなど港湾魚類対策を継続して実施している。

### 2. 対策メニュー

港湾の環境改善 (汚染防止)	セシウム濃度の高い魚の発生防止のため、海底土被覆、K排水路の水質改善（フェーシング、がれき撤去、浄化材設置、清掃等）などに取り組んでいる。
魚類の移動防止・ 捕獲	港湾内の魚類が港湾外に移動するのを防止するため、魚類移動防止網（東波除堤、1-4号機取水路開渠出口等）の設置や港湾での刺し網、かご網等による捕獲に取り組んでいる。
モニタリング	港湾の水質改善の効果や魚類の状況を確認するため、海水中放射性物質濃度や魚類のセシウム濃度のモニタリングに取り組んでいる。

### 3. 魚類の移動防止・捕獲の強化

これまで取り組んできた港湾魚類対策の進捗により、2024年4月以降、港湾内でセシウム濃度が100 $\mu$ g/L/kgを超える魚は捕獲されていない状況が続いている。

ただ、昨年11月にセシウム濃度85 $\mu$ g/L/kg、本年1月に81 $\mu$ g/L/kgの魚類が港湾内で捕獲。港湾の環境改善については、水質は改善しているものの、対策の実施・効果の発現には引き続き時間を要することから、機動的な対策として、港湾内の成魚の生息を抑制する観点も含め、港湾内から港湾外への魚類の移動防止・捕獲の取り組み強化が必要。

このため、先般（2026年2月18日）、相馬双葉漁業協同組合にご相談を実施。頂いたご助言を踏まえ、強化策を検討・実施していく。

#### <相馬双葉漁業協同組合と港湾魚類対策の強化のご相談結果>

- ・刺し網は、魚群探知機で確認して魚がいる場所や防波堤沿いなどに仕掛ける。位置を時々変える。
- ・かご網も同様に、魚群探知機を活用し設置場所を設定。かご網内の餌は、筒に入れるのではなく、餌を刺してそのまま入れる。位置も時々変える。
- ・はえ縄を仕掛ける時間帯は、魚の動き出す夜明け頃で、仕掛けてから2～3時間程度で引上げる。防波堤沿いはやってみる価値がある。
- ・投網をするよりも、かご網を増やす方が効果的。投網を実施するなら、魚群探知機の活用が必要。

具体的には、2026年1月より実施している対策に加えて、以下の通り、調査も活用しながら、積極的な魚類の捕獲に取り組んでいく。

○刺し網、かご網等の漁獲を増やすため、魚群探知機を活用し、魚が現れやすい場所を選んで刺し網やかご網を設置する取り組みを行い、魚類捕獲の強化を図る。

○漁獲の少ないはえ縄の運用方法の改善、かご網の追加、新しい手法を用いた調査、捕獲（集魚灯の活用、投網導入、クロソイの胃の内容物調査など）の検討などに取り組み、継続して魚類捕獲の強化を図る。

V. 福島第一原子力発電所港湾魚類対策（実施状況と強化の内容）

